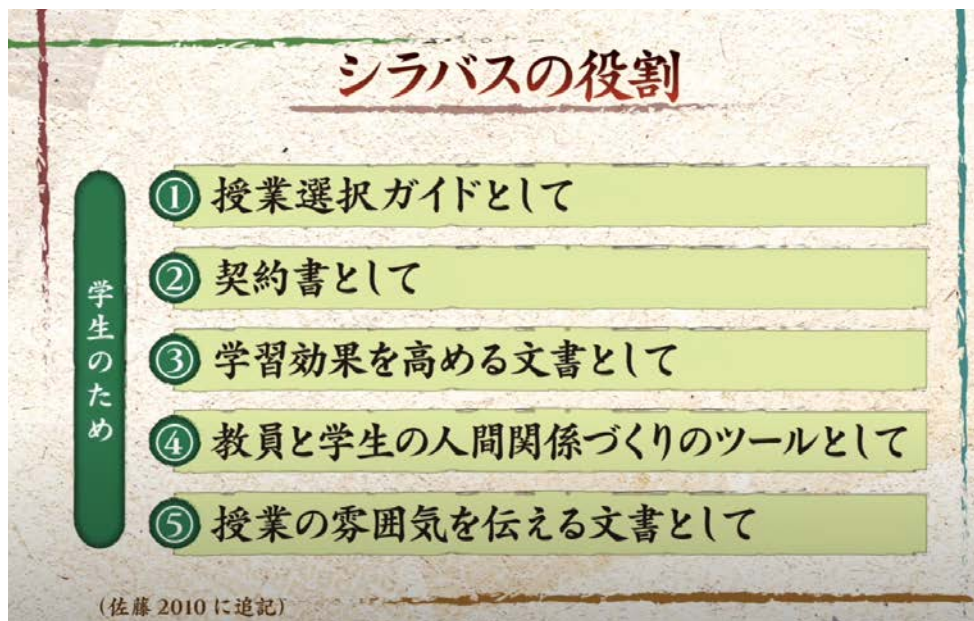


パート1. シラバスってどんな役割があるの？

- ・シラバスは授業全体の設計図
- ・学生にとってのシラバスの役割
 - ①授業選択ガイドとして
 - ②契約書として：学生と教員の間での契約
 - シラバスに基づいて学生は学び、教員は学生が到達目標を達成できるように指導する
 - 授業内容を変更する場合には、教員は学生にシラバスを配り直して共有する必要がある
 - ③学習効果を高める文書として
 - 授業の計画をより詳しく書いたり、もっと学びたい人のための参考文献リストを書いたりする
 - ④教員と学生の人間関係づくりのツールとして
 - シラバスは0回目の授業
 - ⑤授業の雰囲気伝える文書として
 - シラバスは0回目の授業



- ・ 教員、大学にとってのシラバスの役割

シラバスの役割

- ⑥ 授業全体をデザインする文書として
- ⑦ 教員の教育業績のエビデンスとして
- ⑧ カリキュラム全体に一貫性をもたせる資料として
- ⑨ 大学の PR のため
- ⑩ 学習成果の可視化のため

(佐藤 2010 に追記)

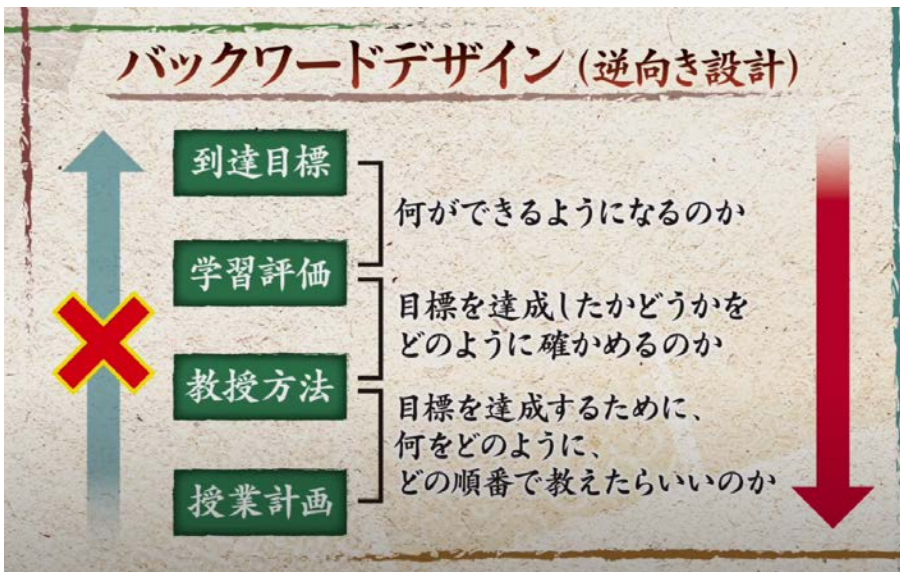
- ・ シラバスは授業全体を設計する書類

パート2. 授業って何から設計するの？

- ・ 授業にも設計図が重要
- ・ 大学カリキュラムの構造
シラバスは科目を設計して示すもの



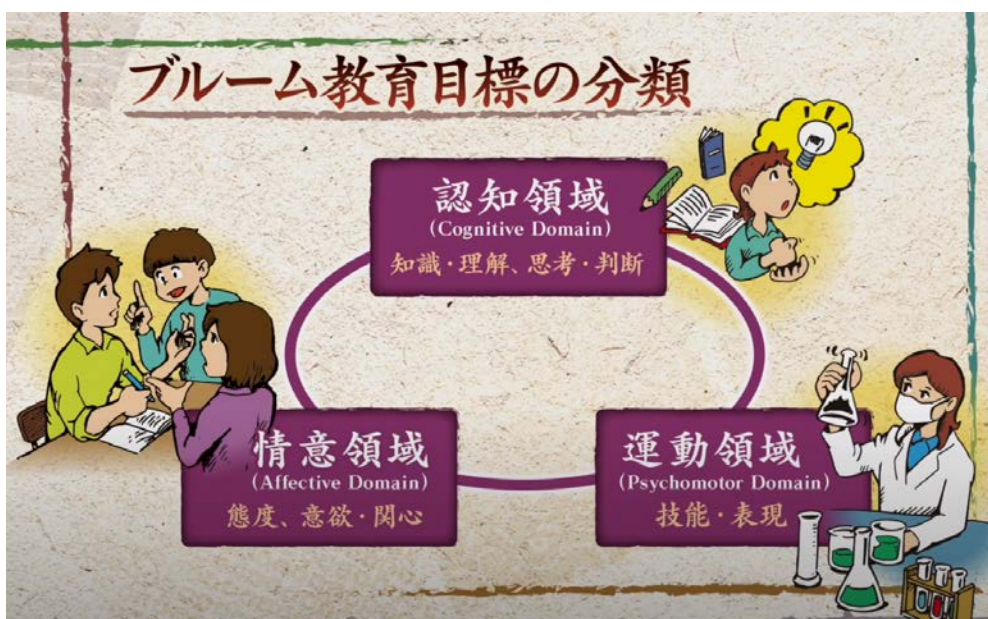
- ・ 授業設計の手順：バックワード・デザイン（逆向き設計）
学生は何かができるようになるのか、目標達成をどのように確かめるのか、目標達成のために何をどのようにどの順番で教えたらいいのか、というように学生中心で授業を設計していく



- ・到達目標の設定
 - 学生を主語にして書く
 - 授業終了後に学生は何ができるようになるのかを書く
 - 到達目標は測定できるように書く
- ・到達目標のレベル設定
 - ジャンプすれば届くレベルに設定する
 - 目の前の学生のレベルに合わせる



- ・到達目標の領域を意識する
 - 認知領域：講義など
 - 運動領域：実験、演習など
 - 情意領域：課題に対してどのくらい意欲を持って取り組んだか



・到達目標は動詞を使って表現する

授業の目標に使用する動詞(認知的領域)

列挙する 説明する 選択する 分析する
計算する 批判する 評価する 仮説を立てる



授業の目標に使用する動詞(精神運動的領域)

実施する 設計する 実装する 測定する
配合する 調整する 組み立てる 挿入する



授業の目標に使用する動詞(情意的領域)

討議する 協調する 見せる 表現する
協力する 応える 系統立てる 配慮する



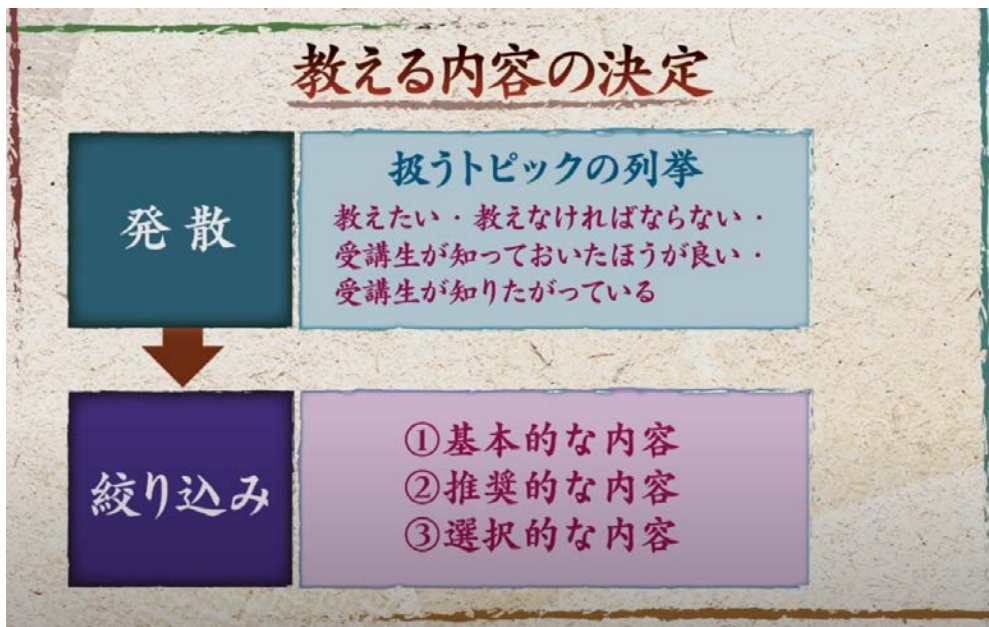
- ・よい到達目標は評価（測定）できる

「アルゴリズム入門」の到達目標

修正前	修正後	評価方法の例
アルゴリズムの 計算手順を 理解する	計算の手間を考慮して、目的に応じた 適切なアルゴリズムの 選択ができる (認知領域)	多肢選択 一問一答方式 テスト
データ構造と アルゴリズムの 関係がわかる	自らデータ構造とアルゴリズムを 設計できる (運動領域)	レポート
アルゴリズムの 基礎的な理論を 考える	分割統治法、動的計画法、グリーディ法などの 基礎的なアルゴリズム設計法を活用して、 自らアルゴリズムを 実装できる (運動領域)	レポート 作品

パート3. 授業のスケジュールはどうやって決めたらいい？

- ・スケジュールを詳細に示すことで、シラバスは学習のガイドになる
- ・何を教えるのか？
- ・教える内容の決定
重要なことを厳選する（←→網羅主義）

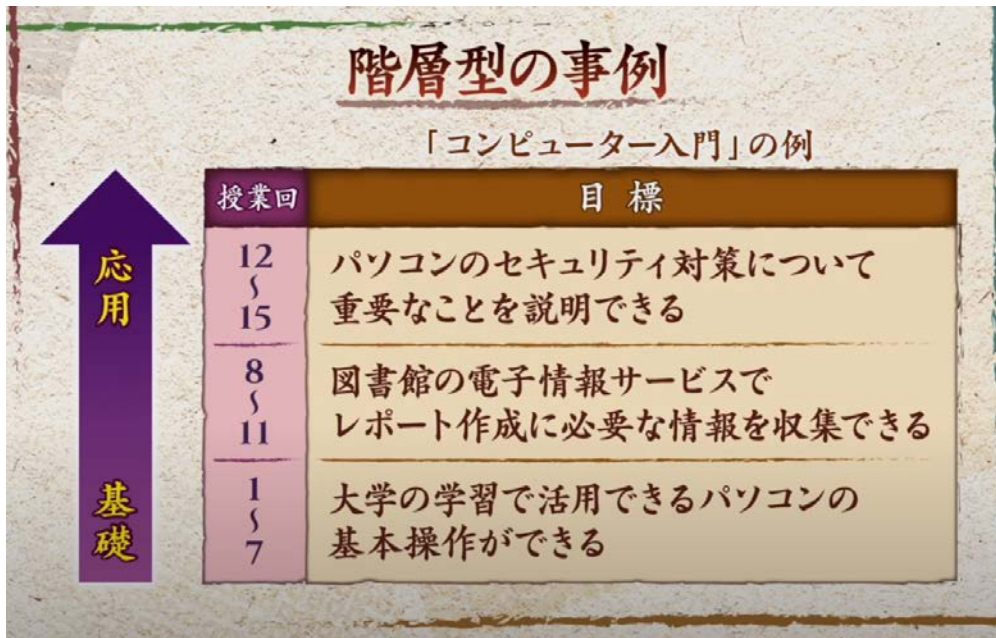


- ・授業外での学習内容もシラバスに書き込む
例：家で教科書を読ませる
→学生にとって、学習のガイドになる

・どの順番で教えるのか？

・階層型

基礎から応用に



・らせん型

トピックを積み上げていく



・到達目標達成のための道筋を考える

・グラフィックシラバス

図示化して各授業回の関係性を表現する



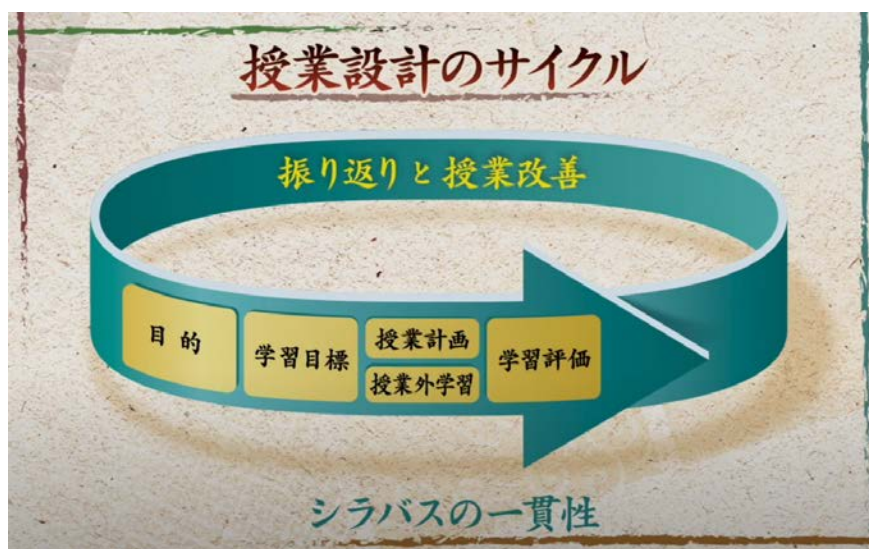
・グラフィックシラバスには、課題や試験の情報も書き込むことができる

→学生は学習のスケジュールを立てることができる

パート4. 授業を改善するためには？

・授業設計のサイクル

到達目標から学習評価までのシラバスの一貫性に加えて、授業後の振り返りによって、授業改善につなげることができる



・振り返ったことを記録しておく

悪かったことだけではなく良かったことも統合的に振り返って、メモしておく

・振り返りの構造

学生の受講態度・表情やコメントシート・レポート・テストが授業改善のヒントになる
他の先生の授業も参考にする



・授業設計を繰り返すことが授業改善につながる

授業設計についてもっと学びたい人のための参考文献

- ① 中島英博編（2016）『授業設計（シリーズ大学の教授法 第1巻）』玉川大学出版部
- ② 鈴木克明（2002）『授業設計マニュアルー独学を支援するために』北大路書房